2026年11月6日

各　　位

会 社 名　富士ユナイトホールディングス株式会社
代表者名　代表取締役社長兼CEO　川 崎　靖 弘
（コード番号 416A 東証ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ）
問合せ先　取締役執行役員兼CFO　大 橋　　亮
（TEL．03－6849－8825）

2027年３月期第２四半期（中間期）の業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想の上方修正並びに剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想の修正（増配）に関するお知らせ

2026年８月７日に公表した2027年３月期第２四半期連結累計期間（2026年４月１日～2026年９月30日）の業績予想値と、本日公表の第２四半期連結累計期間の実績値との間に下記のとおり差異が生じましたので、お知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、2027年３月期通期連結業績予想値を上方修正するとともに、本日開催の取締役会において、2026年９月30日を基準日とする剰余金の配当（中間配当）及び2027年３月期の期末配当予想の修正（増配）について決議いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

１．2027年３月期第２四半期連結累計期間業績予想との差異（2026年４月１日～2026年９月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	１株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（Ａ）	34,000	420	420	250	37.88
今回実績値（Ｂ）	35,967	1,047	1,036	688	104.27
増減額（Ｂ－Ａ）	1,967	627	616	438	
増減率（　％　）	5.8	149.3	146.7	175.2	
（参考）前期実績	－	－	－	－	－

※当社は、2025年10月１日に設立されたため、前期実績を表示しておりません。

２．差異の理由

売上高につきましては、主にエネルギー領域の石油事業において、原油価格の高騰を背景に販売価格が上昇したことから、前回発表予想を上回りました。

利益面につきましては、エネルギー領域の石油事業が好調に推移したことに加え、グリーン領域のリサイクル事業における大型工事の前倒し実施や、ホームエネルギー事業における費用の一部繰延べなどにより、前回発表予想を上回りました。

主な要因は以下のとおりです。

（グリーン領域）

・リサイクル事業

環境リサイクル事業において、大型の油漏洩事故対応工事の一部を当初の下期実施予定から前倒しで実施したことにより、増益となりました。

・ホームエネルギー事業

上期に予定していた保安投資の一部を下期へ繰り延べたことに伴い、関連費用が減少したことから、増益となりました。

・環境対応エネルギー事業

バイオ燃料事業において、需要が当初想定を下回ったことにより、減益となりました。

（エネルギー領域）

石油事業においては、イランを巡る中東情勢の緊迫化による原油価格の高騰を背景に販売価格が上昇したことから、売上高は前回発表予想を大幅に上回りました。また、利益面においては、需給が逼迫するなかで安定供給の責任を果たしつつ、市況変動に応じた適正な販売を行った結果、大幅な増益となりました。

（インフラ領域）

レンタル事業においては、国土強靭化や社会インフラの更新需要を背景として公共工事が底堅く推移するなか、民間工事需要についても着実な取り込みが出来たことにより増益となりました。

３．2027 年３月期通期連結業績予想の修正（2026 年４月１日～2027 年３月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（Ａ）	80,000	1,000	950	600	90.92
今回修正予想（Ｂ）	83,000	1,300	1,250	800	121.16
増 減 額（Ｂ－Ａ）	3,000	300	300	200	
増 減 率（　％　）	3.8	30.0	31.6	33.3	
（参 考）前 期 実 績	75,057	1,184	1,187	726	109.94

４．修正の理由

通期連結業績予想につきましては、原油価格の高止まりを背景に販売価格が当初想定を上回って推移したことから、エネルギー領域における石油事業の売上高を上方修正いたしました。

また、利益面につきましては、上期に、グリーン領域のリサイクル事業における大型工事の一部を前倒し実施したことやホームエネルギー事業における費用の一部を下期へ繰り延べたこと等、下期減益要因を織り込む一方で、上期の石油事業が好調に推移したことから、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益を上方修正いたしました。

５．剰余金の配当（中間配当）の内容

	決定額 （2027年３月期中間）	直近の配当予想 （2026年５月15日公表）	前期実績 （2026年３月期中間）
基　準　日	2026年９月30日	同左	―
１株当たり 中間配当金	31円00銭	同左	―
配当金総額	205,000,241円	―	―
効力発生日	2026年11月30日	―	―
配 当 原 資	利益剰余金	―	―

※当社は、2025年10月１日に設立されたため、前期実績を表示しておりません。

※中間配当金関係の書類は「第97期 中間配当関係書類送付のご案内」とともに、2026年11月27日（金）に発送する予定です。

６．期末配当予想の修正

（１）期末配当予想の修正の内容

	年間配当金		
	第２四半期末	期末	合計
前回予想 （2026年5月15日発表）	円　銭 31.00	円　銭 31.00	円　銭 62.00
今回修正予想		34.00	65.00
当期実績	31.00		
前期実績 （2026年３月期）	―	31.00	31.00

（２）修正の理由

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題の一つと認識し、グリーン領域を中心とした成長投資による持続的な企業価値向上と、株主の皆様への安定的かつ積極的な利益還元の両立を基本方針としております。

上記方針に基づき、2027年３月期の業績が当初想定を上回る見通しとなったことを踏まえ、今後の成長投資に必要な資金需要および財務基盤の健全性を総合的に勘案し、株主の皆様への利益還元を充実させるため、期末配当予想を１株当たり31円から３円増配して34円（１株当たり年間配当65円）に引き上げることといたしました。

なお、当社は配当による利益還元に加え、経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行を目的として自己株式の取得を実施いたします。詳細につきましては、本日公表の「自己株式の取得及び自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による自己株式の買付けに関するお知らせ」をご参照ください。

※上記の業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

当社グループの業績に大きな影響が見込まれる場合は、速やかに開示いたします。

以上